



変額個人年金保険(Ⅱ型)【無配当】

アルファ

資産運用 保険 年金

四半期運用実績レポート

2014年10月～2014年12月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株式型Ⅱ	シュローダー日本株式オープンVA (適格機関投資家専用)	シュローダー・インベストメント・ マネジメント株式会社
日本中小型株式型Ⅱ	アムンディ・ターゲット・ジャパン・ ファンドVA(適格機関投資家専用)	アムンディ・ジャパン株式会社
海外株式型Ⅱ	PRU海外株式マーケット・ パフォーマンス	ブルデンシャル・インベストメント・ マネジメント・ジャパン株式会社
海外債券型Ⅱ	インデックスファンド海外債券 (ヘッジなし)1年決算型	日興アセットマネジメント株式会社
ハイブリッド・バランス型Ⅱ	ユナイテッド・マルチ・マネージャー・ ファンドI『フルーツ王国』	日本アジア・アセット・ マネジメント株式会社
世界分散型Ⅱ	大和住銀世界資産バランスVA (適格機関投資家限定)	大和住銀投信投資顧問株式会社
マネープール型Ⅱ	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>



アクサ生命保険株式会社

redefining / standards

<募集代理店>
株式会社 荘内銀行



荘内銀行

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

日本株式型Ⅱ

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することによって東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
日本株式型Ⅱ	▲0.47%	3.56%	9.48%	6.59%	87.16%	10.28%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.5%
投資信託	95.5%
合計	100.0%

【参考】日本株式型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

シュローダー日本株式オープンVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社)

騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
シュローダー 日本株式オープンVA	▲0.36%	4.08%	10.78%	8.62%	100.04%	57.17%
TOPIX	▲0.20%	6.12%	11.48%	8.08%	93.18%	52.82%

* 設定日2002年9月30日

株式銘柄上位10

(組入銘柄数85)

銘柄	ウェイト
トヨタ自動車	4.93%
三井住友フィナンシャルグループ	3.82%
KDDI	3.65%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.42%
日立製作所	2.60%
オリックス	2.58%
三井物産	2.54%
東芝	2.53%
ブリヂストン	2.46%
本田技研工業	2.35%

投信の純資産総額に対する実質比率

株式業種別上位10

業種	ウェイト
電気機器	14.79%
輸送用機器	11.74%
情報・通信業	10.03%
銀行業	9.04%
卸売業	6.64%
医薬品	6.12%
機械	5.64%
化学	4.17%
小売業	3.60%
その他金融業	3.37%

投信の純資産総額に対する実質比率

対TOPIXオーバーウェイト業種

業種	ウェイト	TOPIX
情報・通信業	10.03%	6.73%
卸売業	6.64%	4.17%
その他金融業	3.37%	1.24%
ゴム製品	2.95%	0.92%
電気機器	14.79%	13.04%

投信の純資産総額に対する実質比率

対TOPIXアンダーウェイト業種

業種	ウェイト	TOPIX
陸運業	1.72%	4.03%
不動産業	0.90%	3.06%
電気・ガス業	0.00%	2.09%
化学	4.17%	6.03%
食料品	2.30%	3.97%

投信の純資産総額に対する実質比率

〈運用コメント〉

12月はTOPIXで▲0.2%の下落となりました。円安進行による企業業績の改善期待や衆議院選挙での自民党圧勝報道でアベノミクスの政策期待が高まり、上旬に国内株式市場は年初来高値を更新しました。中旬にかけては、原油価格の下落が止まらず、石油輸出国でもあるロシア通貨が急落したことで、投資家心理が悪化し、世界的に株安となり、日本株も大幅に下落しました。その後、米FOMC後の声明文やFRB議長の記者会見により、米国の金融政策に対する安心感が広がり、ロシアの通貨安も一服したことから、再び円安株高に転じました。しかし、海外情勢の不透明感の払しょくには至らず、中旬までの下落は回復できませんでした。

業種別では、値上がり率上位5業種が鉱業、石油・石炭製品、保険業、サービス業、空運業となりました。鉱業は原油安の影響を受けて10月以降株価が大きく下落しており、一時的に反発したと思われます。石油・石炭製品は業界再編報道が好感されました。下位5業種は情報・通信業、その他金融業、食料品、不動産業、証券、商品先物取引業となりました。

企業にとって、資源価格の下落や円安は全体で見るとプラス面が大きく、収益環境は良好と思われます。1-3月期は消費増税前の駆け込み需要があった前年との比較では物足りなく見えますが、市場の焦点は徐々に来期業績に移っていくと思われます。短期的には海外情勢の不透明感や国内外の金融政策への思惑等を巡って相場が上下する可能性はあるものの、日本企業の価格競争力向上や構造改革効果の顕在化による持続的な企業業績の改善が日本株の支援材料となると考えます。中長期的な株価の上昇余地を高める要素として、今後の企業の資本政策の変化が注目されます。

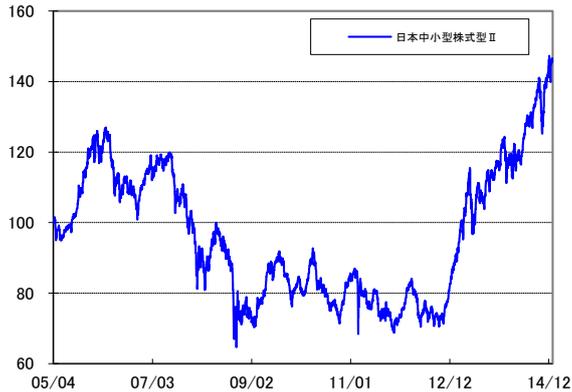
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

日本中小型株式型Ⅱ

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる中小型企業の国内株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に高い投資成果をあげることが目標となります。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本中小型株式型Ⅱ	2.42%	4.08%	12.95%	19.36%	99.67%	45.79%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.0%
投資信託	96.0%
合計	100.0%

【参考】日本中小型株式型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンドVA (適格機関投資家専用) (運用会社:アムンディ・ジャパン株式会社)

騰落率

(2014年12月30日現在)

組入上位10業種

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンドVA	2.90%	5.05%	15.17%	23.09%	116.61%	92.05%
TOPIX(※)	▲0.20%	6.12%	11.48%	8.08%	93.18%	19.94%

業種	比率	業種	比率
1 電気機器	14.2%	6 その他製品	6.4%
2 機械	11.7%	7 鉄鋼	6.2%
3 建設業	11.5%	8 繊維製品	5.4%
4 化学	8.4%	9 銀行業	5.2%
5 金属製品	6.5%	10 情報・通信業	4.0%

※ TOPIXは当ファンドのベンチマークではありません。
また、パフォーマンス評価の基準となるものでもありません。
騰落率は、設定日の前日を基準として計算しております。

*設定日は2004年7月2日

◇表中の比率は、マザーファンドの純資産総額に対する比率。
◇業種は、東証33業種分類による。

株式組入上位10銘柄

(組入銘柄数:82)

市場別構成比

順位	銘柄	市場	業種	比率	コメント
1	双葉電子工業	東証一部	電気機器	3.0%	蛍光表示管、金型器材のトップメーカー。保有するキャッシュは時価総額相当。
2	TSIホールディングス	東証一部	繊維製品	2.5%	婦人アパレル大手。時価総額と同水準の現預金・有価証券を保有。
3	共英製鋼	東証一部	鉄鋼	2.5%	電炉大手で丸棒に強い。2015年3月期配当は5円増配の25円計画。
4	ワコールホールディングス	東証一部	繊維製品	2.5%	婦人下着トップ。構造改革に目処、今後の株主還元の上昇に期待。
5	トップパン・フォームズ	東証一部	その他製品	2.4%	ビジネスフォーム首位。業績は安定しており株主還元の上昇に期待。
6	ココヨ	東証一部	その他製品	2.2%	「キャンパスノート」で有名な事務用品大手。PBR0.64倍で割安度高い。
7	天馬	東証一部	化学	2.2%	樹脂成形品大手。保有する現預金・有価証券は時価総額の約7割。
8	MS&ADインシュアランスグループホールディングス	東証一部	保険業	2.1%	損保大手。2014年11月に600万株(発行済み株数総数の0.97%)の自社株買いを発表。
9	高周波熱錬	東証一部	金属製品	2.0%	熱処理・焼入加工の大手。2014年3月期で3期連続の増配。
10	ジョイフル本田	東証一部	小売業	2.0%	関東拠点のホームセンター。2015年6月期配当は10円増配の60円計画。

市場区分	比率
東証一部	87.2%
東証二部	3.0%
JASDAQ	2.7%
その他市場	3.5%
現金・その他	3.5%

◇上記の比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率。
◇組入銘柄数は、マザーファンドが組み入れている株式の銘柄数。
◇業種は、東証33業種分類による。

運用コメント

当ファンドの12月のパフォーマンスは、+2.90%でした。株式市場が小幅に下落する中、プラスの収益を確保しました。
当月のパフォーマンスに貢献した主な銘柄は双葉電子工業、きんでん、近畿車輛です。蛍光表示管で世界シェア6割の双葉電子工業は、営業利益に対する円安効果が高く、2015年3月期下期の計画為替が105円/米ドルで足元の120円/米ドルの円安が評価される展開になりました。電気工事トップのきんでんは、2011年の震災以降、低迷していた配電線工事に回復の兆しが見られ、収益の拡大期待で株価は堅調に推移しました。鉄道関連の近畿車輛は、11月に2015年3月期の経常利益が▲19億円から▲34億円に赤字が拡大すると発表し株価は下落しましたが、当月は好調な車両の受注環境が見直されました。
一方、マイナスに寄与した主な銘柄は、エスペック、日立工機です。環境試験器のエスペックは、株価が2014年初から11月まで4割上昇し12月はその反動で利食いに押されました。発表した中期経営計画で配当性向をこれまでの30%から40%に徐々に引き上げる方針が示され、更なる株主還元の上昇が期待されます。電動工具大手の日立工機は、住宅着工の低迷と11月に株価が上昇した反動もあり、12月の株価は調整局面となりました。17.6%保有する自己株式の売却の可能性は引き続き高いと考えています。
2014年の年間収益率は+23.09%とTOPIX(配当込み)の+10.27%を大幅に上回ることができました。割安で財務の健全な株主還元余力の高い銘柄に投資するという当ファンドの戦略が奏功した結果であると考えています。迎えた2015年はアベノミクスの具現化、結果が求められる1年であり、株式市場は必ずしも順風満帆とは言えません。当ファンドの基本方針の通り、経営や株主還元など変化していける銘柄へ投資してまいります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

海外株式型Ⅱ

日本を除く世界各国の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することによって、MSCI KOKUSAI インデックス (円換算ベース) に連動した投資成果をあげることを目標とします。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
海外株式型Ⅱ	0.92%	11.41%	16.95%	18.73%	123.49%	63.23%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金・預金・その他	0.4%
投資信託	99.6%
合計	100.0%

【参考】海外株式型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

PRU海外株式マーケット・パフォーマー

(運用会社: プルデンシャル・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社)

騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
PRU海外株式マーケット・パフォーマー	1.15%	12.46%	18.82%	21.78%	139.87%	89.57%
MSCI KOKUSAI インデックス (円換算ベース)	1.26%	12.92%	19.61%	23.10%	146.13%	112.34%

※「MSCI KOKUSAI インデックス」とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要国で構成されています。「MSCI KOKUSAI インデックス(円換算ベース)」は、「MSCI KOKUSAI インデックス(米ドルベース)」をもとに、MSCI Inc. の承諾を受けたいえ委託会社で計算したものです。「MSCI KOKUSAI インデックス」はMSCI Inc. の財産であり、「MSCI」はMSCI Inc. のサービス・マークです。

* 設定日2001年3月1日

株式国別上位10

国名	ウェイト
アメリカ	57.0%
イギリス	7.8%
カナダ	4.0%
スイス	3.8%
フランス	3.5%
ドイツ	3.5%
オーストラリア	2.9%
オランダ	1.4%
スペイン	1.3%
スウェーデン	1.2%

※ベビーファンド純資産総額に対する実質組入れ比率

株式業種別上位10

業種	ウェイト
医薬品・バイオテクノ・ライフ	9.3%
銀行	9.0%
エネルギー	8.1%
ソフトウェア・サービス	6.8%
資本財	6.7%
食品・飲料・タバコ	5.7%
素材	4.7%
テクノロジー・ハードウェア・機器	4.4%
各種金融	4.0%
保険	4.0%

※ベビーファンド純資産総額に対する実質組入れ比率

株式銘柄上位10

(組入銘柄数1,287)

銘柄	ウェイト
APPLE INC	2.1%
EXXON MOBIL CORP	1.2%
MICROSOFT CORP	1.2%
JOHNSON & JOHNSON	0.9%
WELLS FARGO COMPANY	0.8%
GENERAL ELECTRIC CO.	0.8%
PROCTER & GAMBLE CO	0.8%
NESTLE SA-REGISTERED	0.7%
JPMORGAN CHASE & CO	0.7%
NOVARTIS AG-REG SHS	0.7%

※ベビーファンド純資産総額に対する実質組入れ比率

<運用コメント>

米国株は原油価格急落やギリシャの政局不安等の懸念から小幅下落しました。米国株式市場は、原油価格下落などが懸念されましたが、強い米国経済指標や欧州の追加緩和策期待などから、月初は緩やかな上昇基調となりました。しかし、石油輸出国機構(OPEC)が需要見通しを引き下げ、原油価格やロシア・ルーブルが急落したことを受けて、下落基調に転じました。米連邦公開市場委員会(FOMC)が、利上げ時期について「少なくとも今後数回の会合ではない見込みである」との姿勢を表明したことが好感され、上昇しました。月末にかけてはギリシャの政局不安からやや調整しました。欧州株式市場は、世界経済の成長鈍化などが懸念されましたが、欧州中央銀行(ECB)が1月会合で追加緩和を協議するとの期待などから、月初はもみ合いとなりました。しかし、その後、原油価格の急落などを受け、下落基調に転じました。月末にかけてもギリシャ懸念から低迷しました。結局、NYダウは17,823.07ドルで終了し、0.03%の下落、ナスダックは1.16%の下落、SP500は0.42%の下落となりました。欧州株については、ドイツDAX指数は9,805.55で終了し、1.76%の下落、フランスCAC指数は4,272.75で終了し、2.67%の下落、イギリスFT100指数は6,566.09で終了し、2.33%の下落となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

海外債券型Ⅱ

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、シティ世界国債インデックス(除く日本/円ヘッジなし・円ベース)に連動した投資成果をあげることを目標とします。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
海外債券型Ⅱ	0.89%	8.89%	13.96%	13.71%	57.77%	32.22%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4%
投資信託	95.6%
合計	100.0%

【参考】海外債券型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド海外債券(ヘッジなし)1年決算型 (運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

ファンド(分配金再投資)とベンチマークの収益率

	3か月間	6か月間	1年間	3年間	設定来
ファンド収益率(分配金再投資)	9.74%	15.57%	16.23%	18.90%	5.54%
ベンチマーク収益率	10.01%	16.11%	17.07%	19.80%	6.41%
差異	▲0.27%	▲0.53%	▲0.84%	▲0.90%	▲0.87%

*設定日2001年10月17日

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3か月間、6か月間)は、年率換算していません。
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。
 ※上記表およびグラフ使用のベンチマークは、前日(土、日等を除く)のドルベースインデックスを当日のファンドで採用しているレートで円換算しており、投資信託の基準価額算出方式に合わせています。

公社債残存別構成比

残存期間	ウェイト
1年未満	0.84%
1~3年	28.27%
3~7年	33.63%
7~10年	10.38%
10年以上	25.61%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

公社債組入上位10銘柄(組入銘柄数554銘柄)

	銘柄名	ウェイト	通貨	残存年数
1	US TREASURY N/B	5.125%	アメリカドル	1.38年
2	US TREASURY N/B	4.5%	アメリカドル	1.13年
3	US TREASURY N/B	3.625%	アメリカドル	6.13年
4	US TREASURY N/B	8%	アメリカドル	6.88年
5	US TREASURY N/B	3.75%	アメリカドル	3.88年
6	US TREASURY N/B	3.625%	アメリカドル	5.13年
7	US TREASURY N/B	3.375%	アメリカドル	4.88年
8	US TREASURY N/B	2.25%	アメリカドル	1.25年
9	US TREASURY N/B	3.25%	アメリカドル	1.42年
10	US TREASURY N/B	8.125%	アメリカドル	4.63年

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

公社債通貨構成比

	通貨	ウェイト
1	ユーロ	42.18%
2	アメリカドル	39.33%
3	イギリスポンド	8.35%
4	カナダドル	2.31%
5	オーストラリアドル	1.65%
	その他	4.91%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<運用コメント>

<運用目標>

「海外債券インデックス(ヘッジなし)マザーファンド」への投資を通じて、世界の主要国の債券市場の動きをとらえることを目標に、シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)の動きに連動する投資成果をめざします。

<海外債券・為替状況>

12月の米国10年国債利回りは、前月末比で低下(債券価格は上昇)しました。雇用統計や2014年7-9月期GDPなど米国の市場予想を上回る内容の経済指標の発表などを受けた米国連邦準備制度理事会(FRB)による2015年中の利上げ実施観測の強まりなどを背景に、上昇(債券価格は下落)する局面があったものの、ギリシャの政情不安や原油価格の急落などを受けた投資家による逃避需要の強まりなどを背景に、低下しました。12月の欧州債券市場では、英国やドイツの10年国債利回りは、ギリシャの政情不安や原油価格の急落などを受けた投資家による逃避需要の強まりや、欧州中央銀行(ECB)による国債の買い入れを含めた量的金融緩和の実施観測などから、前月末比で低下(債券価格は上昇)しました。イタリアやスペインの10年国債利回りは、ギリシャの政情不安がユーロ圏の高債務国の国債利回りの上昇(債券価格は下落)要因となったものの、ECBによる国債の買い入れを含めた量的金融緩和の実施観測などから、低下しました。

12月の円/アメリカドル相場は、ギリシャの政情不安や原油価格の急落などを受けた投資家によるリスク回避の円買い需要などを背景に、円高/アメリカドル安となる局面があったものの、米国における良好な景気動向などを背景とした2015年中の利上げ実施観測などから、円安/アメリカドル高となりました。12月の円/ユーロ相場は、前月末と比べて円高/ユーロ安となりました。上旬は、欧州中央銀行(ECB)総裁の発言を受けて量的金融緩和の実施観測が後退したことなどから、円安/ユーロ高となりました。中旬から下旬にかけては、ギリシャの政情不安などを受けた投資家によるリスク回避の円買い需要や、ECB高官による金融緩和の拡大を示唆する発言などを背景に、円高/ユーロ安となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ハイブリッド・バランス型Ⅱ

6ヶ月物譲渡性預金利率を参考ベンチマークとし、投資信託証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式、債券および為替取引等ならびにこれらに関連する派生商品(先物取引およびオプション取引等)に積極的に分散投資を行うことにより、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ハイブリッド・バランス型Ⅱ	1.13%	3.25%	1.06%	▲5.63%	▲13.33%	▲37.44%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.6%
投資信託	95.4%
合計	100.0%

【参考】ハイブリッド・バランス型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ユナイテッド・マルチ・マネージャー・ファンド1(愛称:フルーツ王国)

(運用会社: 日本アジア・アセット・マネジメント株式会社)

ファンドの騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
基準価額	1.30%	3.82%	1.92%	▲4.40%	▲9.68%	▲20.44%

* 設定日2001年3月12日

ファンドの内訳

戦略別	組入れ比率
アルファ戦略	41.5%
ベータ戦略	52.2%
キャッシュ代替	3.5%
現金等	2.8%
合計	100.0%

〈運用コメント〉

当ファンドの12月の騰落率は+1.30%となりました。ファンドへの戦略別の寄与は、アルファ戦略が+28.5円、ベータ戦略が+71.0円となりました。当月は、原油価格の下落、ロシア・ルーブルの急落、ギリシャの政情不安等がグローバル資産市場に影響しました。株式市場は、米雇用統計で雇用の改善が確認され上昇局面はあったものの、原油安による産油国経済への懸念やロシア・ルーブルの急落、ギリシャの政情不安等を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、米国および欧州株式市場は下落しました。日本株式市場も、円安の進行や設備投資増等の経済指標発表等から上昇となる局面はあったものの、エボラ出血熱に関する報道やロシア通貨の急落やギリシャ政局に対する不安等、外部環境が悪化することへの懸念から下落しました。外国為替市場では、原油安による産油国経済への懸念等の台頭によりリスク回避の動きが強まり、円が買われる局面はありましたが、FOMC後は市場の想定通り2015年中に米金利の利上げがあるとの見方が優勢となったことから円安基調となり、米ドル円レートは前月末に比べ円安で当月を終えました。一方、ユーロ円市場はユーロ圏での景気の減速が目立ち円高となりました。

●アルファ戦略

当月は、「アカディアン日本株式シングルアルファ」、「スーパーサイクル・シングルアルファ」ともにプラス寄与となったことから、アルファ戦略合計でプラスリターンとなりました。

●ベータ戦略

「POPTレンド・ファンド」、「ETFグローバル・バランス」ともにプラス寄与となり、ベータ戦略合計でプラスリターンとなりました。

引続き組入れファンドのパフォーマンスおよびリスクを注視し、必要に応じてファンドの組入れ比率や戦略の配分比率を変更することによりファンドリターンの改善を目指します。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

世界分散型Ⅱ

世界各国の株式、公社債および日本を除く世界各国の不動産投資信託(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することによって、中長期的に高い投資成果をあげることを目標とします。基本資産配分は、国内株式20%、外国株式30%、国内債券10%、外国債券30%、不動産投資信託(REIT)10%としますが、状況の見直しに応じて機動的な変更を行うことがあります。市場動向等を勘案して為替ヘッジを行うことがあります。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
世界分散型Ⅱ	1.04%	10.04%	15.33%	16.35%	89.61%	28.00%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金・その他	0.8%
投資信託	99.2%
合計	100.0%

【参考】世界分散型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

大和住銀世界資産バランスVA(適格機関投資家限定) (運用会社:大和住銀投信投資顧問株式会社)

ファンドの騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
大和住銀世界資産バランスVA	0.84%	10.48%	16.31%	18.43%	99.62%
参考指数	1.27%	10.69%	16.32%	18.99%	99.32%

※ファンド収益率(分配金再投資)とは、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金で当ファンドを購入(再投資)した場合の収益率です。
※ファンドの組入比率は各マザーファンドにおける実質組入比率(純資産総額対比)です。

設定日2008年1月7日

年金日本株式マザーファンド

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
ファンド収益率	▲0.40%	5.15%	11.97%	10.69%	110.18%
ベンチマーク収益率	▲0.07%	6.27%	12.45%	10.27%	105.78%

(注)ベンチマークは東証株価指数(TOPIX、配当込) 設定日2001年5月28日

年金日本債券マザーファンド

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
ファンド収益率	1.18%	2.25%	2.95%	4.93%	9.74%
ベンチマーク収益率	1.04%	2.11%	2.69%	4.25%	8.30%

(注)ベンチマークはNOMURA-BPI総合指数 設定日2001年5月28日

海外REITマザーファンド

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
ファンド収益率	4.84%	23.46%	27.48%	44.44%	139.55%
ベンチマーク収益率	4.68%	23.46%	28.26%	44.65%	147.26%

(注)ベンチマークはS&P先進国REITインデックス(除く日本、配当込、円換算) 設定日2007年2月20日

株式組入上位10業種

業種名	ファンドの組入比率
電気機器	15.12%
輸送用機器	13.66%
銀行業	10.71%
情報・通信業	9.25%
小売業	5.12%
機械	4.93%
化学	4.45%
不動産業	3.29%
食料品	2.98%
保険業	2.91%

株式組入上位10銘柄(組入銘柄数 83)

銘柄名	ファンドの組入比率
トヨタ自動車	7.51%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	5.71%
セイコーエプソン	3.30%
日本電信電話	2.86%
三菱電機	2.69%
三井住友トラスト・ホールディングス	2.62%
ジェイ・エフ・イー・ホールディングス	2.54%
日立製作所	2.45%
三井物産	2.24%
KDDI	2.10%

※業種分類は東証33業種分類による

公社債別構成比

種別	ファンドの組入比率
国債	64.60%
地方債	0.00%
政保債	0.00%
金融債	0.00%
事業債	28.60%
円建外債	0.00%
MBS	1.93%
ABS	3.30%

公社債組入上位10銘柄(組入銘柄数 83)

銘柄名	ファンドの組入比率
129 20年国債	5.57%
121 5年国債	5.17%
327 10年国債	5.06%
122 5年国債	4.52%
44 30年国債	4.27%
325 10年国債	4.05%
93 20年国債	3.81%
22 30年国債	3.66%
119 5年国債	3.55%
321 10年国債	3.42%

国別組入比率(上位5カ国)

国名	ファンドの組入比率
アメリカ	70.07%
オーストラリア	9.83%
イギリス	7.54%
フランス	5.42%
シンガポール	2.75%

セクター別組入比率(上位5セクター)

業種	ファンドの組入比率
店舗用不動産投資信託	27.85%
各種不動産投資信託	18.49%
オフィス不動産投資信託	16.11%
住宅用不動産投資信託	14.23%
ホテル・リゾート不動産投資信託	6.28%

※業種はMSCI社世界産業分類基準(GICS)

インターナショナル株式マザーファンド

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
ファンド収益率	0.36%	12.82%	20.77%	23.52%	161.24%
ベンチマーク収益率	1.30%	13.06%	19.87%	23.79%	150.58%

(注)ベンチマークはMSCIコクサイインデックス(円換算) 設定日1999年7月30日

株式組入上位10カ国

国名	ファンドの組入比率
アメリカ	59.09%
イギリス	6.56%
ケイマン諸島	5.08%
スペイン	2.70%
香港	2.24%
スイス	2.05%
ドイツ	1.99%
インド	1.83%
カナダ	1.72%
メキシコ	1.66%

株式組入上位10銘柄(組入銘柄数 75)

銘柄名	ファンドの組入比率
AMAZON.COM INC	3.47%
APPLE INC	2.93%
AMERICAN AIRLINES GROUP INC	2.70%
BOEING CO/THE	2.30%
JPMORGAN CHASE & CO	2.29%
ALLERGAN INC	2.26%
AIA GROUP LTD	2.24%
GOOGLE INC-CL C	2.18%
ARM HOLDINGS PLC	2.13%
STATE STREET CORPORATION	2.12%

インターナショナル債券マザーファンド

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年
ファンド収益率	0.82%	9.32%	15.55%	17.31%	76.05%
ベンチマーク収益率	1.06%	10.01%	16.11%	17.07%	71.96%

(注)ベンチマークはシティ世界国債インデックス(除く日本、円換算) 設定日2001年2月23日

公社債組入上位通貨

通貨	ファンドの組入比率
ユーロ	43.82%
米ドル	33.23%
英ポンド	7.38%
メキシコペソ	3.11%
オーストラリアドル	1.69%

公社債組入上位10銘柄(組入銘柄数 192)

銘柄名	ファンドの組入比率
FRANCE OAT. 4.25 10/25/18	3.90%
US TREASURY N/B 1 03/31/17	3.66%
US TREASURY N/B 2.625 04/30/16	3.25%
TREASURY BILL 0 03/19/15	3.24%
US TREASURY N/B 2.5 03/31/15	2.91%
US TREASURY N/B 2.75 02/15/19	2.43%
FRANCE OAT. 3.75 04/25/21	2.20%
BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND 3 07/04/20	1.94%
US TREASURY N/B 1 09/15/17	1.85%
US TREASURY N/B 3.375 05/15/44	1.73%

〈運用コメント〉

【年金日本株式マザーファンド】 国内株式市場は、TOPIX(配当込み)は前月末比▲0.07%となりました。月初は円安や原油価格の下落による収益改善への期待や良好な経済指標を背景に年初来高値を更新しましたが、その後は海外株安や資源国経済への懸念などリスクオフの中で円高・株安となりました。その後反発したものの、月末にかけてはギリシャの政局混迷など外部環境の悪化を警戒した手じまい売りが上値を抑える形となりました。

ファンドの運用実績は、前月末比▲0.40%とベンチマークであるTOPIX(配当込み)を▲0.33%アンダーパフォームしました。連結予想PERが市場対比で割安な水準です。業種では、情報・通信業や電気機器などをオーバーウェイトし、医薬品やサービス業などをアンダーウェイトしました。個別銘柄では、好パフォーマンスだった伊藤忠商事やリネアホールディングスなどを売却しました。一方、相対的に割安感のあるみずほフィナンシャルグループや業績伸長が期待できるセイコーエプソンなどを購入しました。

日銀の金融緩和によるインフレ期待は継続しており、国内景気は回復方向にあります。また、FRB(米連邦準備制度理事会)の量的緩和が終了し、中長期的に円安方向にあると判断しています。こうした環境下、内需回復に加え、円安による国内産業活性化や国際競争力の強化などが期待できる銘柄への入替を進めます。リスク要因としては、新興国や欧州経済の不安定が挙げられます。

【年金日本債券マザーファンド】 原油価格の下落幅拡大を背景に、株安・新興国通貨下落など世界的にリスク回避の動きが強まった他、インフレが抑制されるとの見方が強まったことから、国内債券相場は値を切り上げる展開となりました。月央にリスク回避の動きが一巡した後も、好調な結果となった5年債や20年債入札を受けて相場上昇傾向が継続しました。10年国債利回りは一時過去最低水準となる0.30%台まで一段と低下しました。ファンドの運用実績は、前月末比+1.18%とベンチマークであるNOMURA-BPI総合指数を+0.14%アウトパフォームしました。

国内事業債市場は、国債利回りの低下について行けず、対国債利回りは小幅ながら拡大しました。当ファンドでは、組入債券のデュレーションをベンチマーク対比長めを維持しつつ調整しました。残存年限別構成は、イールドカーブのブルフラット化予想のもと、残存10年超のオーバーウェイトを継続しました。種別構成は事業債の比率をベンチマーク対比で高めに維持しました。

【インターナショナル株式マザーファンド】 当ファンドは前月末比+0.36%となり、ベンチマークであるMSCIコクサイインデックス(円換算)に対して▲0.94%アンダーパフォームしました。ベンチマークに対し、通貨配分効果と業種配分効果がプラスに寄与した一方、個別配分効果と銘柄選択効果がマイナスに作用しました。

【インターナショナル債券マザーファンド】 当ファンドは前月末比+0.82%となり、ベンチマークであるシティ世界国債インデックス(除く日本、円換算)を▲0.24%アンダーパフォームしました。

＜債券＞

オーストラリアをアンダーウェイトからベンチマーク並みとしました。また、非ベンチマーク銘柄のイスラエルを売却しました。一方、カナダと米国のアンダーウェイト幅を増やしました。

＜通貨＞

メキシコペソのオーバーウェイト幅を増やしました。また、ノルウェークローネをオーバーウェイトからベンチマーク並みに引き下げました。

【海外REITマザーファンド】 12月のグローバル・リート市場は上昇しました。シンガポールとイギリスのリート市場がやや出遅れた以外は、ほとんどの主要市場でプラスのリターンとなりました。

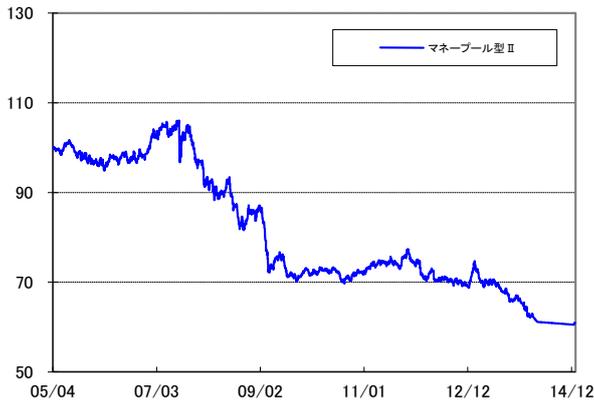
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

マネープール型Ⅱ

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目標とします。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(「100」)として指数化したものです。

※2014年4月17日、「ハイブリッド株式型Ⅱ」は廃止となり、「ハイブリッド株式型Ⅱ」の特別勘定資産は当特別勘定に移転されました。

ユニット・プライスと特別勘定資産内訳は、4月17日までは「ハイブリッド株式型Ⅱ」、4月18日以降は、当特別勘定の数値を表示しています。

ユニット・プライスの騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
マネープール型Ⅱ	0.54%	0.28%	▲0.09%	▲6.75%	▲17.57%	▲39.12%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	10.1%
投資信託	89.9%
合計	100.0%

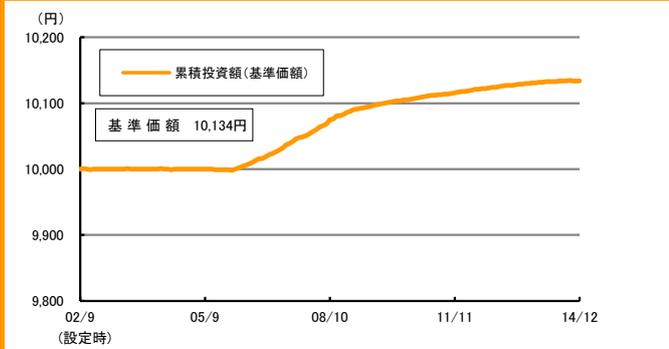
【参考】マネープール型Ⅱの主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投資信託株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

設定来の運用実績 (2014年12月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額 112.6 億円 (2014年12月30日現在)

商品概要	
形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2014年12月30日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.00%	▲0.01%	0.00%	0.02%	0.17%	1.34%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)	
第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円
第12期(2013.12.02)	0円
第13期(2014.12.01)	0円

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2014年11月28日現在)

<資産別組入状況>

債券	73.5%
CP	-
CD	-
現金・その他	26.5%

<組入資産格付内訳>

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	73.5%
短期債券格付	A	-
	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		26.5%

平均残存日数	37.67日
平均残存年数	0.10年

(対純資産総額比率)

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2014年11月28日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	第492回 国庫短期証券 2015/02/16	債券	AA/Aa	17.0%
2	第477回 国庫短期証券 2014/12/08	債券	AA/Aa	17.0%
3	第483回 国庫短期証券 2015/01/13	債券	AA/Aa	13.6%
4	第479回 国庫短期証券 2014/12/15	債券	AA/Aa	13.6%
5	第476回 国庫短期証券 2014/12/01	債券	AA/Aa	6.8%
6	第488回 国庫短期証券 2015/01/26	債券	AA/Aa	4.1%
7	第493回 国庫短期証券 2015/02/23	債券	AA/Aa	1.4%
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

(組入銘柄数: 7)

上位10銘柄合計 73.5%

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を8/8ページに掲載していますので必ずご参照ください。

